

# COLUMN — コラム —

## 「“卵”は跳ねる」

年も新しく“卵”になりました。今年の“寅”の評価はあまり良くなかったみたいです。「卵は跳ねる」という格言のとおり、飛躍・向上と皆さんに人気の干支だそうで、特に相場の世界では、景気の転機・回復と縁起の良い年と期待されている干支みたいです。

新年の全国経営者意識調査によると、56%の人が今年景気が良くなると答えています。しかし、昨年と同調査では、約8割の人が今年景気が良くなると答えていましたので、景気への期待感は昨年より薄れているようです。その原因は何でしょうか？

原因の一つは、たぶん昨年は多くの人がコロナの収束を期待したのではないのでしょうか。収束どころか年明け早々第6波、夏に7波、暮れに8波と感染者は増えてしまいました。しかし、今やウィズコロナで世の中は動き出していますので、今年は少し期待が持てそうです。

もう一つ厄介なのが、誰も予想もしなかった「戦争」が始まったことではないでしょうか。世の中何が起こるかかわからないという不安が拡がり、景気への期待感が薄れていったのだらうと想像します。なぜ戦争なんかするのでしょうか。ウィズ戦争なんてまっぴら御免です。

物理学者アインシュタインと心理学者フロイトとの手紙のやり取りを記した「人はなぜ戦争をするのか」という本には、「人間の心自体に問題がある」と書かれているし、ドイツの哲学者カントによれば、「人間は邪悪な本性を持ち、放っておくと戦争を始めてしまう」と言っています。また、年末のテレビ「徹子の部屋」でゲストのタモリさんが、「来年は誰も予測できない、新しい戦前になるのではないですかね」と発言し、ネットで話題になっていました。人類は戦争の歴史であり、どうやら人間がいる限り平和は期待薄のようです。

これら太古の昔から生き続けている「ウイルス」と「戦争」のダブルパンチで、われわれ酪農

乳業界も大きな危機に見舞われています。資材高騰、過剰在庫、個体価格下落、所得減少など多重苦に直面してしまい、コロナ発生から3年の苦しい時を過ごしました。

やっとここにきて、為替も少し持ち直してきましたし、乳製品の在庫も減少傾向にあります。飲用向け乳価も昨年1月に期中改定があり、この4月からは加工向け乳価も上がります。全国的に生産抑制も効果がでてきて、少し明るい光が見えてきました。

なにせ我が国の牛乳乳製品の需要は、年間1,200万tあり、これは90年代半ばからずっと変わっていません。そのうちの約400万tが輸入され続けています。この1割でも国産に置き換われば国内の需給ギャップは解消し、たちまち酪農乳業界に春が訪れます。今そのチャンスが見えてきました。皮肉にもこの戦争によって、乳製品の国際価格が高騰し国内製品との価格差が縮まってきました。さらに、主要乳製品輸出国にも変化が起きています。例えばEUでは、環境保全目的で畜産生産の抑制の動きがあり、輸出のために環境負荷を負う必要はないという考えが広がっています。米国・豪州・NZなども環境・気候変動要因により、生産拡大・維持は限界と言われています。つまり、輸出国の供給能力が縮小しているということは、年間400万tの輸入が国産に置き換わっていくということです。どんどん搾らないと追いつかないということです。国内需要が年間1,200万t変わらずにあるというのは、それだけで力強いことなのです。

どうですか皆さん、少しは元気になりましたか？ 明るい光が見えてきましたか？ まだまだ目の前の現実には厳しいですが、日本の酪農には明るい未来があります。そのためにも、今年は“卵”に大きく跳ねてもらって、酪農の転機・回復・飛躍・向上に期待しましょう！



らくのうマザーズ専務  
大川 清治

## 第3回酪農後継者育成塾が開催されました

生産本部 営農指導課

去る12月9日（金）、「令和4年度第3回酪農後継者育成塾」が開催され、24名の塾生が受講しました。今回は「優良農場視察」というテーマで、梁池勝憲牧場（JA菊池泗水中央支所）を視察しました。

梁池牧場は12月現在、繋ぎ牛舎で経産牛50頭（搾乳牛44頭）を飼養しており、1頭あたりの年間成績は12,000kgを超える高泌乳牛群を管理されています。体細胞数も年間通して低く、乳成分についても優秀な牧場です。



（梁池勝憲氏と志穂氏）

視察では勝憲さんと奥様の志穂さんから、子牛、育成牛、乾乳牛、搾乳牛の管理について実践していることや気をつけていることなどのお話がありました。



梁池さんは日々の管理で以下のことを特に重要視されています。

- ① 全てのステージに高品質な粗飼料を給与
- ② 牛群改良の継続
- ③ 基本を怠らない

この中でも良質粗飼料給与に関しては特に重要視されており、「過去にコストを抑えるために粗飼料の品質を落とし、牛の状態（乳量や繁殖）を悪化させてしまった経験がある。高品質な粗飼料は例えるなら、牛たちにとって何よりも良いサプリメントであり、掛かったコストは牛達が返してくれることを実感している。」と説明。

哺育管理については、担当している志穂さんから、出生後の子牛は基本的に親牛に任せてリッキングさせ、哺乳欲をわかせてからなるべく早く代用初乳製剤の給与を行うなど、出生後からの管理のポイントについてお話をいただきました。

移行期管理については、勝憲さんより、乾乳期を十分な広さのスペースで飼養管理すること、十分な良質粗飼料とビタミンを給与していることなどについて話していただきました。周産期病の予防のためにも乾乳期にBCSを変化させないこともポイントとされていました。分娩直後はビタミン、カルシウム、プロピレングリコール等を給与されており、飼槽にはTMRと良質乾草を置き、牛に選ばせています。このような管理が順調な立ち上がりや早期の種付けに繋がり、結果的に高泌乳に繋がっているのだと思います。



搾乳牛管理については、搾乳衛生のお話がありました。清拭時、タオルはマイクロファイバー製のもので一頭に対し2枚使用し、とにかく乳頭を綺麗にする、また、洗濯後には乾燥機で乾燥させ、保管するなど基本的な衛生面を徹底されており、乳房炎治療ではなく、発生予防の大切さを改めて教えていただきました。また、ゲノム検査を利用して、体型（特に骨格）を重要視した牛群改良を続けられており「NTP、TPI、LPIなどの数値だけで判断せず、搾乳牛になってからの体型調査や乳量などの実際の成績を考察して牛を選定していくべき」とのことでした。

今回の視察研修では、牛群改良に加え、哺育期、育成期から良質な粗飼料でしっかりと腹づくりを行い、乾物摂取量を高め、その結果が現在の成績に表れているのと感じました。また、お二人がしっかりと牛を観察し、愛情をもって牛たちとコミュニケーションをとり、それに牛たちが応



えてくれているのだと感じられました。受講者の皆さんも熱心に梁池氏の話に聞き入り、活発な意見交換ができました。

(担当：営農指導課 作村)



### らくのうマザーズ家畜市場

## 搾乳素牛セール初せり

1月20日（金）、らくのうマザーズ家畜市場搾乳素牛セールの初せりがJ A熊本市畜産センターで開催されました。

せりに先立ち、初せりのセレモニーが開催され、らくのうマザーズ隈部会長の年頭挨拶や、牛乳での乾杯が行われました。

多くの購買者が集まる中、新年のスタートにふさわしく活気のあるせりが行われ、育成牛2頭、初妊牛64頭、経産牛67頭の計133頭が売買成立しました（出品頭数は138頭）。初妊牛の平均販売価格は556千円（税抜）と前月より43千円の上昇となりましたが、前年同月比では145千円の下落となりました。また、北海道初妊牛の平均価格も同様に、前月より81千円上昇しましたが前年同月比では61千円下落しています。厳しい情勢が続きま

すが、北海道内市場の相場も徐々に上向いてきている上、1月以降は春分娩の腹が中心となるので、今後は強含みで推移すると予想されます。



# 令和4年度（後期）審査概況報告について

一般社団法人日本ホルスタイン登録協会 審査委員 塩野 雅一

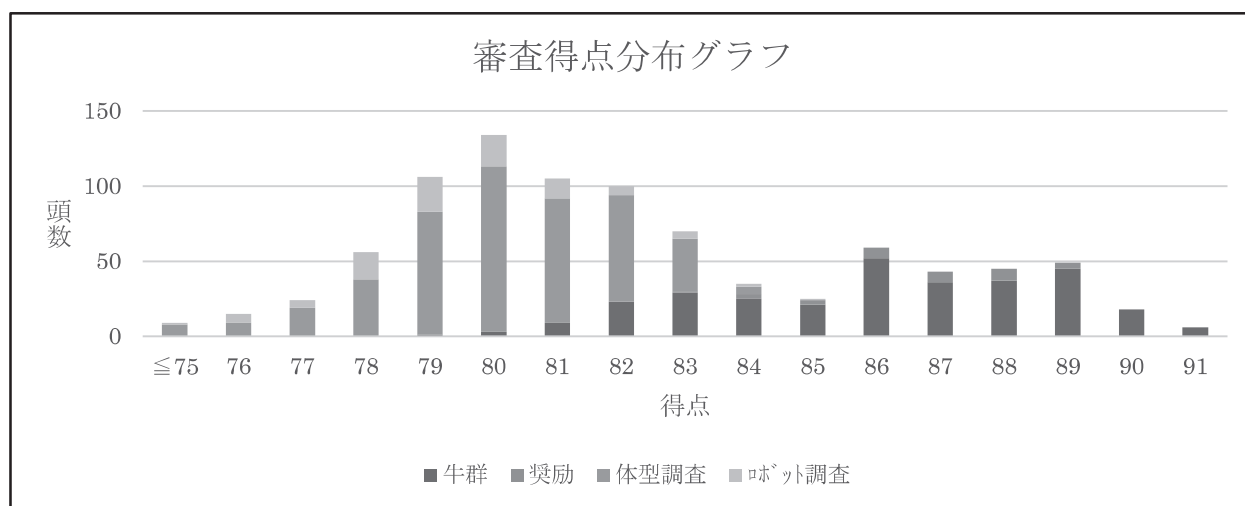
去る11月28日から12月23日までの4週間、牛群審査並びに体型調査・搾乳ロボット適合性調査を実施致しました。前回訪問したときは、令和元年前期に高橋審査委員の指導研修でしたので、正式に審査委員として熊本県の担当となったのは初めてとなります。

新型コロナウイルス感染症の国内初の感染者が確認されてから、4年目を迎えました。春以降の5類への変更の検討、また変更に伴い屋内のマスク着用を不要とする等々、パンデミック前には戻れずとも新しい社会環境づくり等の明るい兆しが見える中ではありますが、この感染症は感染力が強く何時誰が罹っても不思議ではない危険な伝染病であることは言う迄もありません。しかしながら、このような状況下におきまして、後期審査を当初の予定どおり無事に終了することができましたのは生産者、らくのうマザーズの方々をはじめ県内(酪)農協・関係機関の皆様のご尽力によるものであり、本紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。

## ◎審査概況

さて、今期牛群審査並びに体型調査・ロボット調査では108戸（前年同期比+16戸）に訪問し、牛群審査25戸305頭（1戸@12.2頭・前年同期比△9戸△106頭）、奨励審査8戸33頭（1戸@4.1頭・前年同期比+2戸+11頭）、体型調査71戸460頭（1戸@6.5頭・前年同期比+21戸+46頭）、ロボット調査12戸101頭（1戸@8.4頭・前年同期比+4戸△12頭）の合計899頭（前年同期比△61頭）の審査・調査を実施することができました。なお、得点分布・グラフは以下のとおりです。

	≦75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	計	平均得点
牛群					1	3	9	23	29	25	21	52	36	37	45	18	6	305	86.1
奨励									1	3	3	7	7	8	4			33	86.7
体型	8	9	19	38	82	110	83	71	35	5								460	80.1
ロボ	1	6	5	18	23	21	13	6	5	2	1							101	79.5
計	9	15	24	56	106	134	105	100	70	35	25	59	43	45	49	18	6	899	82.3



# MOTHER'S

## ◎高得点牛は24頭（EX90以上）

高得点牛を以下の表にまとめました。今期の高得点牛は12軒で24頭、このうちEX91が6頭となっております。EX91のうち、4産で獲得したのは、菊池市の芹川恵介さん所有「エツセンス マツカチエン ゴールド ET/EX91」と、球磨郡あさぎり町の林田敏之さん所有「スターク バーデュー B モントレラ ET/EX91」です。特に、芹川恵介さんの所有牛は極めて機能的な乳器構造と高い乳用性を備えた牛でありました。この他に先述の芹川恵介さん所有「KSF スーパーステイション マリー/EX91」、合志市の(株)SUNRISE所有「サンライズ ミス オブザバー」、合志市の松野佑哉さん所有「オンワード アフターショック ハーゲン/EX91-2E」、球磨郡錦町の(株)有田牧場所有「KM エグザイル ライジングサン/EX91-4E」がそれぞれEX91を獲得しております。なお、左記の(株)有田牧場所有の牛は、合志市の後藤勝さん所有「ウイナーメード CH エアロ ファイバー/EX90-6E」とともに11歳以上、産次数は8産以上を数え、現在も牛舎で活躍している素晴らしい牛でありました。

そして、先程ご紹介しました後藤牧場所有の牛を含めEX90を獲得したのは18頭で、今期エクセレント牛は合計24頭となりました。獲得された皆様方におかれましては、心よりお祝い申し上げます。

名 号	生年月日	得点	産次	所有者住所氏名	
エツセンス マツカチエン ゴールド ET	H29.08.12	91	4	菊池市	芹川 恵介
スターク バーデュー B モントレラ ET	H28.09.16	91	4	球磨郡あさぎり町	林田 敏之
KSF スーパーステイション マリー	H27.12.06	91	5	菊池市	芹川 恵介
サンライズ ミス オブザバー	H27.01.08	91	5	合志市	(株)SUNRISE
オンワード アフターショック ハーゲン	H26.01.05	91(2E)	6	合志市	松野 佑哉
KM エグザイル ライジングサン	H23.10.01	91(4E)	8	球磨郡錦町	(株)有田牧場
キー ジヤスト DO IT アイオーン	H30.10.16	90	3	合志市	松島 太一
キー クラツシュ アリシア	H30.08.13	90	3	合志市	松島 太一
アークヒル オーソリティー トマ	H30.06.06	90	3	球磨郡多良木町	(株)荒木牧場
カルテット ハーデス ラブ サイゴウ JK ET	H30.02.15	90	3	合志市	松島 太一
ドリーム G ソロモン ハーゲン	H30.01.24	90	3	合志市	(株)SUNRISE
スターク クラツシュ クリング	H29.11.30	90	4	球磨郡あさぎり町	林田 敏之
HND ブラッドニツク フラワー	H28.12.08	90	4	菊池市	本田 真人
クララ ビー モーグル チャンプ	H28.09.12	90	4	球磨郡錦町	村田 瑞晃
アークヒル ミテイオ ダイアモンズ	H28.07.13	90	5	球磨郡多良木町	(株)荒木牧場
アークヒル BVK ブラッドニツク	H28.01.16	90(2E)	5	球磨郡多良木町	(株)荒木牧場
ヒルズ スーパーサイアー ミサ	H28.01.04	90	5	菊池市	松岡 明彦
ラージアツプ モーグル アナ	H27.12.21	90	5	菊池郡大津町	(株)ラージアツプ
スターク HR ドアマン エンザ ET	H27.11.28	90	5	球磨郡あさぎり町	林田 敏之
スマイリー スペキュレーター チップ スター	H27.10.18	90	5	球磨郡錦町	村田 瑞晃
デコール スーパーステイション チーフ	H27.01.15	90	6	菊池市	芹川 恵介
キー モーサン ミツシー アトリー ET	H26.12.13	90	5	合志市	松島 太一
スターク マンモス イブ	H26.05.03	90(2E)	7	球磨郡あさぎり町	林田 敏之
ウイナーメード CH エアロ ファイバー	H23.11.29	90(6E)	9	合志市	後藤 勝

## ◎体型調査・ロボット調査にご協力ください

体型調査は毎年2回、前後期に分けて後代検定候補種雄牛の材料娘牛と同期牛を対象に、各JA・酪農協の協力により実施しております。生産者の皆様には訪問するたび丁寧にご対応いただいておりますことに、改めまして厚く御礼申し上げます。

これまで、乳牛の改良は血統登録・牛群検定・後代検定が周期的で一体的な事業であると言われて参りました。今日では技術の発達によりゲノム解析が普及したことで、これを含めて初めて一体的な事業となり、ゲノムは乳牛改良において必要不可欠となっております。この一体的な事業に積極的に取り組むことは、牛群の遺伝評価値を向上させるだけでなく信頼度を向上させ、結果的にその成果が牛群に反映されると考えられます。

また、搾乳ロボット適合性調査事業は、将来のロボット指数開発と種雄牛遺伝評価への反映を目的としてスタートした事業です。この事業では、牛群検定・血統登録実施農家を対象として、搾乳ロボット牛舎に加え繋ぎ・フリーストール／フリーバーン牛舎を対象として初産から3産までの体型審査を無料で実施いたします。

熊本県は全国的にもロボット搾乳牛舎が数多く普及しておりますので、これらの事業にご理解いただき積極的にご協力いただきますよう宜しくお願いいたします。

## ◎終わりに

国内における新型コロナウイルス感染症につきましては、オミクロン株対応のワクチン接種が普及したこともあり、冒頭でも述べたように5類への変更等が検討されておりますが、米国発で最強の感染力とも言われるXBB.1.5型が日本国内でも確認され、第8波が長引く恐れがある等終息に向けては未だ不透明な状況にあります。当協会といたしましても、引き続き当感染症に注視するとともに感染防止対策の徹底に努めてまいりますので、安定的な体型審査の実施にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではありますが令和4年度（後期）牛群審査、体型・ロボット調査の報告とさせていただきます。